

道徳科における授業づくりのポイント

松隈 晶平

1 道徳科におけるねらい1について

道徳科では、授業のねらい1を二つの観点から書きます。一つは、内容（内容項目を焦点化し、具体化したもの）です。二つは、道徳性（道徳的判断力、道徳的心情、道徳的实践意欲と態度）です。

○ ねらいの作り方の例

ねらい1 ～とは（～には）、～（内容項目）であるとわかり、～（道徳性の諸様相）を育てる。

【第6学年「相互理解、寛容」のねらい1の例】

1 学習指導要領解説（48ページ）内容の分析

〔第5学年及び第6学年〕自分の考えや意見を相手に伝えるとともに、**謙虚な心**をもち、**広い心**で自分と異なる意見や立場を尊重すること。
 ①謙虚な心…相手を敬う気持ちを持ち、自身を過度に誇示することなく、相手から学ぼうとするような控えめな態度で接しようとする精神である。
 ②広い心…他人の意見を傾聴したり、他人の立場を尊重したりして、他人の過ちに対して寛容であるような精神である。

ここでは、「謙虚な心」と「広い心」の二つがあることを捉え、それぞれの意味を解釈し、本主題の内容を整理していく。

2 前主題や次主題との内容のつながり

第三学年	→ 第四学年前期	→ 第四学年後期	→ 第五学年前期	→ 第五学年後期	→ 第六学年前期	→ 第六学年後期
主題名：相手とわかり合って 教材名：心をしずめて	主題名：相手のことを考えて 教材名：ちこく	主題名：相手の意見を聞く 教材名：にぎりしめた いね	主題名：広い心 教材名：折れたタワー	主題名：相手の立場も大切に 教材名：すれちがい	主題名：相手を理解する心 教材名：ぼくだって	主題名：広く受け入れる心 教材名：フランク乗りとビエロ
感情的にならずに、相手の言動を理解しようとする	相手が置かれている立場や状況を理解すること	自分と異なる意見について、その背景にあるものを考えること	相手の立場に立って、相手の失敗を受け止める謙虚さ	広い心をもって自分と異なる意見や立場を尊重する	相手の立場や状況に気付き、同様のことがあると受け止める謙虚さ	広い心を持ち相手を受け入れることでよりよいものが生まれる

ここでは、既習の内容や次時の内容とのつながりを解説書や教材を基に分析し、本主題が「謙虚な心」に焦点化できることを捉える。

3 学習指導要領解説（49ページ）内容の具体化（子供の実態、教材分析も併せて）

指導に当たっては、（一部省略）**相手の過ちなどに対しても、自分にも同様のことがあることとして謙虚な心**、（一部省略）

学級の子供たちは、どう考える？教材「ぼくだって」だと、どんな「謙虚な心」が捉えられる？

ここでは、解説書の内容を手掛かりに、子供の実態や教材分析を通して、本主題で捉えさせるべき「謙虚な心」は何かを具体化していく。

ねらい1 相手を理解するには、相手の状況や立場を受け止めたり、自分にも同様のことがあると思って相手を知ろうとしたりする謙虚さをもつことが大切であるとわかり、謙虚さをもって相手を許そうとする態度を育てる。

2 道徳科における指導計画について

道徳科では、既存の価値観を基に、他者と協働することで、自分がもっている感じ方や考え方を多面的・多角的に考えて既存の価値観を更新し、自己の生き方についての考えを深めることが大切です。

道徳科では、「事前」「本時」「事後」の三つで指導計画を考えていきます。事前の活動では、子供の実態把握を行います。的確な実態把握を行うことで、子供は問題意識をもち、自分事として考えていきます。事後の活動では、学習内容を日常生活に生かそうとする姿を称賛します。称賛することで、子供は学習内容を意識しながら生活でき、よりよい生き方を目指すことにつながります。

段階	内容	教材「ぼくだって」での具体例
事前	①実態把握（どんな価値観をもっているのか）	【友達の失敗を許せた経験】 【友達の失敗を許せなかった経験】
	②背景や根拠（どうしてそのような言動をするのか）	運動会のリレーで失敗したとき。 給食当番を忘れていたとき。
事前	③導入の方向性（どのように問題意識をもたせるのか） を実態調査(アンケート)を基に教師が把握する。 ※ ①については、内容項目を視点にプラスとマイナスの両面から子供の経験を想起させる。	【なぜ、許せた？】 【なぜ、許せなかった？】 失敗は誰にでもあるから。 相手が謝らなかつたから。
		【友達の失敗を許せるためには？】 相手の気持ちを考える。相手の立場に立つ。
事後	教師が、子供の成長を見守り、努力を認めたり、励ましたりすることによって、子供が自らの成長を実感し、さらに意欲的に取り組もうとするきっかけを継続して働きかける。	【友達が失敗をしたとき、受け止める謙虚さをもてた子供の姿】 →できた場面や朝・帰りの会での教師や子供からの称賛 →よい心の一つとして学級掲示をする。 (例)学級のよい心が膨らんだら、よい心の花を増やす。

3 道徳科における一単位時間の学習過程について

道徳科では、子供が既存の価値観を基に、自分事として問題意識をもちながら、多様な感じ方や考え方と出会う中で、新たな価値観へ更新し、これからの自己の生き方についての考えを深めることができるといった学習過程を大切にします。

○ 一単位時間の学習過程（波線は、ICT活用）

→四つの活用類型（**共感的活用**、**批判的活用**、**感動的活用**、**範例的活用**）をもとに計画する。

段階	子供の活動	○教師の具体的支援
導入	<p>○ 既存の価値観やこれまでの経験を振り返り、本時学習のめあてについて話し合う。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 150px;"> <p>・既存の価値観</p> <p>・理想の自分</p> <p>・できている自分</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>← 比較 →</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 150px;"> <p>・新たな価値観</p> <p>・現実の自分</p> <p>・できていない自分</p> </div> </div> <p>めあて □□大切な心を考えよう。</p>	<p>○ 価値についての問題意識をもたせるために、<u>子供の実態調査の結果をまとめたものを学習者用端末で提示</u>したり、発問したりする。</p>
展開	<p>○ 主人公の弱さが現れた場面での心情を考える。</p> <p>人間的な弱さが現れた負の感情を交流</p> <p style="text-align: center;">負の感情への共感</p> <p>○ 中心場面での主人公の心情の変化を考える。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <p>主人公の心情を表出</p> <p>全体交流</p> </div> <p style="text-align: center;">表出された考えの比較・分類</p> <p>視点ごとに整理された考え</p> <p style="text-align: center;">深める発問によるペアやグループ、全体での交流</p> <p>ねらいに基づいて焦点化されたよりよい考え</p>	<p>○ 主人公の弱さを捉えさせるために、発問し、全体交流する場を設定する。</p> <p>○ 中心場面の主人公の心情を捉えさせるために、発問し、<u>学習者用端末で自他の考えを比較</u>する場を設定する。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p style="text-align: center;">深める発問（例）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 条件…「もし～だったら…」 ○ 置換…「あなたが～だったら…」 ○ 疑問…「～のに、なぜ…」 </div>
終末	<p>新たな価値観 □□には、～心をもつことが大切。</p> <p>思いや願いを振り返る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・今までの経験とつなぎ、自分との関わりで考えることができたか。 ・友達と対話し、様々な視点で考えることができたか。 ・学んだことをこれからの生活に生かそうと思ったか。 </div>	<p>させるために、三つの視点を基に、<u>学習を振り返る場</u>を設定する。</p>

4 道徳科における ICT の活用について ※ ICTの活用はねらい達成の手立てであり、目的にならないように気を付けます。

道徳科では、ICTの活用について大きく三つの用い方があります。

【導入】 既存の価値観を振り返るための用い方

【展開】 中心場面での主人公の心情を表出したり、友達と共有したりするための用い方

【終末】 学習の振り返りを記述し、次時へのスタディ・ログとして蓄積するための用い方

